

坂入一敏の鯉釣り塾

霧ヶ浦小高干拓で釣った尻尾の長い巨鯉

吸い込み釣りとうき釣りを楽しむ



鯉の吸い込み釣り

最強のエサで「攻めの釣り」を展開 鯉の数釣りとうきビッグサイズを狙う

鯉を釣るための条件

【1】ポイントを決める

鯉を釣るには、まず、釣り場の情報を得ることです。ビギナーは釣具店などでベテランは釣り仲間から情報を得ることです。釣り場の一部だけでなく、釣り場全体を把握した上で、どのポイントを攻略するかを決定します。

春は産卵のためにどこに鯉が回遊して来ているか？浅場であるか、流れ込み、藻の回りか、などを調べましょう。秋は水深のあるカケアガリ、杭やオダ周りの深場などのポイントを狙います。釣り場の必要な情報をできるだけ多く得て、ポイントの状況を判断し、自分でポイントを決めることが釣果を大きく左右します。

【2】活性を読む

私は魚の活性を読む時「温い」という

ふうに肌で感じることが多い。鯉は変温動物ですから寒い時は鯉の動きが悪く、気温が上がると鯉は活発に回遊します。

その季節らしい陽気で、風が前方向から吹いて来る時に食いが良くなります。風による波で水中が攪拌され、プランクトンも集まるので活性が上がります。

雨が降った後などで増水すれば、水が動き水中の酸素量が増えます。従って増水の時は活性が上がりが魚が接岸します。減水時は水の動きも少なく酸素量も減るので、魚は沖の深場に移動します。つまり活性が下がるといふことです。

【3】水温の変化

釣り場が決定したら、まず水温を測ります。水温は低すぎても高過ぎててもいけません。鯉が口を使う適水温は18度以上です。水温の多少の変化ならよいが、極端な変動は鯉の食いに大きく影響します。その日の水温だけを気にするのではなく、数日前からの水温の変化の上下が、釣果の差になって現れるのです。

早朝は気温が低いので水温も低い。日中、日が射すと水温も上昇するが、暖か

くなり過ぎると魚の食いが落ちます。夕方は気温が下がりが水温も低下します。朝まずめ、夕まずめが狙い時です。

【4】気圧の変化

気圧の上ト下トにより活性が変化します。低気圧の後、風が吹いて荒れた後に大物が釣れることがよくありますが、気圧の変化が魚の食いに大きく影響しています。気圧が下降する時は魚の食いが落ちます。逆に気圧が上昇する時は、活性が上がりが鯉釣りに良い条件になります。雨が降る前よりも雨が降って好天する時の方が、よく食ってきます。

【5】良い仕掛けとは

吸い込み釣りは仕掛けが比較的大仕掛けです。しかし、活性が低く、食いが悪い時にはハリの号数を小さくしたり、活性が高くウグイなど、ジヤミヤ小物が多い時には、ハリの号数を上げます。根掛かりが多い所ではハリの本数を少なくするなどの工夫も必要です。また、仕掛けを砂の上に引きずっただけでもハリ先は甘くなりますので、ハリ先は常にチェックする必要があります。

吸い込み釣りは向こう合わせなので、少ないアタリを確実にものにし、せつかく掛けた大物をバラさないように、ハリスやミチイトも傷付いていないかを常にチェックして置きましょう。

【6】釣れない要因、釣れる要因を考える

鯉釣りをしている隣に釣れて自分には釣れない時、また、自分だけ爆釣して隣にはアタリすらないことがあります。釣れる要因があるように釣れない要因も必ずあります。なぜ、小さい鯉しか釣れないのか？アタリがないのはポイントが違うのか？など、その原因を突き止めなければなりません。

小物が多く釣れる時は動物性の匂いの強い配合エサが多く使われていることが考えられ、釣れない時は鯉の回遊するポイントから仕掛けがずれていたりする場合があります。そんな時はエサや仕掛けポイントを変えたりします。釣れた人のエサを見て勉強することも必要です。釣れない疑問を解くことが釣果に結びつき、次の釣行へとつながるのです。

吸い込みダンゴエサ作りの要点

鯉釣りで重要なことは第一にポイントが上げられますが、その次に重要なのがエサです。エサの種類、配合によって釣果に大きな差がでます。

鯉を釣るにはまず、鯉を匂いで寄せる（活性を上げる）ことです。ただダンゴを投げてアタリを待つのではなく、鯉の好む匂いを水中に漂わせ、遠くの鯉を匂いで寄せる「攻めの釣り」を展開することです。そのため配合、ダンゴエサ作りが重要なのです。

最初から大物はやって来ないから、匂いを含んだ比重のある細かいエサを小物にくわせます。小物が食べているのを見て、次に安心して大物が食べに来るのです。大物にはエサ持ちの良い植物性の配合エサを使います。長時間持てる比重の重い大粒のエサを主体にしたダンゴで大物を狙うと良いですよ。

また、活性が低く、アタリがない場合には、匂いで寄せる手段として「鯉にこれだ!!」をベースエサに混ぜるだけでなく、仕掛けを投げる寸前にダンゴに直接振りかける場合もあります。（投げる寸前でないでダンゴに水分が染みて割れてしまう）

私の場合、釣り場で寄せエサを多く打つよりも、強烈な匂いで寄せるように心掛けています。鯉が多く打ち込んだ寄せエサだけを食べて、くわせエサに食いつく確率が下ることにもなりかねないからです。

くわせエサ

私はくわせに「くわせコーン」と「手づくり芋」を併用して使います。特に「手

れだ!!」などを入れると効力を発揮します。

私の吸い込み釣りのダンゴエサ作りの基本は「動物性などの匂いで寄せ、植物性の比重のあるエサで待つ」ということです。

ベースエサ

私の吸い込み釣りダンゴエサは、「巨鯉」3、「いも吸い込み」3、「鯉武蔵」1、「鯉将」1、「スーパー鯉むぎ」1の割合で混ぜたベースエサに、状況に応じて「鯉のぼり」1〜2、「タニシ吸い込み」1〜2、または「鯉師」1〜2を加え使用します。

最後には、必ず「もじり」1〜2を加えて仕上げます。

大物を狙う時は植物性配合エサを主体に使います。動物性の匂いで食いを誘う時には「鯉のぼり」「タニシ吸い込み」などを入れます。動物性配合エサの分量で匂いの強さをコントロールすることが重要です。

私が「鯉のぼり」を好きな理由は「鯉のぼり」には高タンパクのコーボが配合づくりに芋」はエサ持ちが良く、芯残りして長時間ハリに付いているので、大物を狙うのには最高のくわせエサです。「くわせコーン」はダンゴの中に埋め込み、「手づくり芋」はダンゴに埋め込んだり、ダンゴの外に出して使います。大物が来るまで8〜10時間でも、くわせエサがハリに付いていなければなりません。常にハリに残っているという自信で大物を持てるのです。

エサの配合

吸い込み釣りで大切なのはエサの配合です。大粒が何%、中粒が何%、粉末が何%と配合の割合を考えます。その割合でバラケ具合が変わりますし、エサの持ち時間も変わります。また、釣り場によって匂いで寄せるものを加えたりして、その時の条件にあったエサ作りをします。「大きい」などの粒子の細かい、小物にくわせるエサ、「巨鯉」など大粒で比重が重い、大物にくわせるエサを使い分けることです。

季節に合わせたエサの配合をするのも重要です。春先、乗っ込み期は動物性の

され、集魚性が強い顆粒状のエサだからです。また「鯉のぼり」に入っている青のりは摂餌性を高める要素の一つで、湖沼と河川、どちらにも実績のあるエサだからです。

「タニシ吸い込み」は鯉が好んで食べる貝類、タニシを粉末にして大量に配合し、タニシペレットを加えた最新エサです。活性が低い時にはタニシ特有の匂いと味で魚を強烈に寄せる力があります。

「鯉師」はカニ粉・魚粉などの動物性タンパクを多く含んだ集魚力抜群の配合エサです。鯉の好きなさつまいもチップが入っているので大物も狙えます。

活性材

エサ作りの基本はベースエサの配合ですが、重要なのは食いが悪い時に効果を上げる活性材です。その時の魚の活性を見て、ベースエサに「鯉にこれだ!!」などの活性材を入れると抜群の効果がありません。これを使いこなせば、あなたも名人になります。

「鯉にこれだ!!」はサナギ、ザリガニからのアミノ酸、糖分などを抽出した濃縮エサが多めの方が良い。秋は匂いを押さえて、植物性のエサを主体にくわせます。寄せる時にはどうしても動物性の匂いが必要ですが、秋は越冬のため荒食いをし、活性が高いのであえて動物性のエサを少なめにします。

エサの交換時間

小物が寄っている時と、大物を狙う時はエサ交換の時間が変わります。エサ取りが多い時はエサが長持ちせず、大物が釣れる前に食べられてしまいます。

活性が低くアタリがない時はエサがそのまま残ります。小物のアタリが多い時は1〜2時間、エサ取りが少ない時には3〜5時間がエサ交換の目安です。流れのない湖沼ではエサが長く持ちますが、流れの早い河川ではエサが流されてしまうので、エサ交換の時間を短縮します。

ジャミが多い釣り場でエサを打ち込んですぐに穂先を見ていると小刻みに穂先が揺れたり、ピクピクと穂先が動きます。それはジャミや小物がエサを突っ突いているサインなのです。このような場所ではエサ交換は早めに行いましょう。

坂入一敏の鯉釣り塾



吸い込みダンゴは釣り場ですぐ投入できる状態に作って置く



巨鯉のベースエサを使い霞ヶ浦の小高で爆釣！



「もじり」を1〜2カップほど入れる



よくかき混ぜる



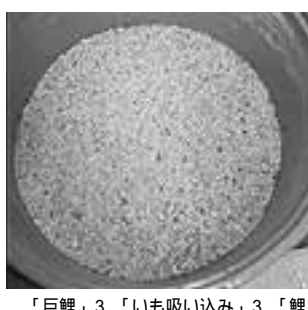
使う 簡単、便利な「ダンゴ握り器」を



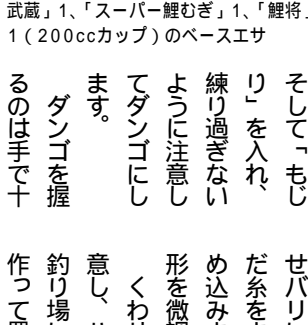
容器に配合エサを入れ、容器の切れ目にハリを入れる



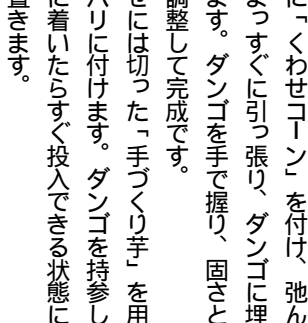
吸い込みダンゴエサの作り方
まず、前記した「巨鯉」と「いも吸い込み」などを主体にしてベースエサを作



私の吸い込み用の配合エサと活性材、くわせエサ



「巨鯉」3、「いも吸い込み」3、「鯉 武威」1、「スーパー鯉むぎ」1、「鯉将」1(200ccカップ)のベースエサ
天然ミネラルを多く含む市販の自然水を、2カップ加える



軽くかき混ぜる

ります。次に「鯉のぼり」を入れ、さらに「鯉にこれだ!!」を少々入れます。

次に水を加えるのですが、私は水道水は塩素が含まれているので絶対に使用しません。替わりに天然ミネラルを多く含んだ市販の自然水を使います。水を加えたら粘りを出すために「鯉武威」をベースエサ全体の1〜2割ほど追加します。

そして「もじり」を入れ、練り過ぎないように注意してダンゴにします。ダンゴを握るのは手で十

分ですが、ちょっと面白くて便利な「ダンゴ握り器」を使ってみました。

同じ分量、大きさのダンゴが握れる新兵器です。作り方はいたって簡単です。まず、容器に配合エサを入れ、容器の切れ目にハリを入れます。次にフタをして足で圧縮します。

フタを外してダンゴを取り出し、くわせハリに「くわせコーン」を付け、弛んだ糸をまっすぐに引っ張り、ダンゴに埋め込みます。ダンゴを手で握り、固さと形を微調整して完成です。

くわせには切った「手づくり芋」を用意し、ハリに付けます。ダンゴを持参し、釣り場に着いたらすぐ投入できる状態に作って置きます。



くわせの「手づくり芋」を切り、ハリに付ける



次にフタをして足で圧縮する



ダンゴを手で握り、固さと形を調整して完成です



フタを外してダンゴを取り出し、くわせハリに「くわせコーン」を付ける



弛んだ糸をまっすぐに引っ張り、「くわせコーン」を埋め込む



釣り場に着いたら、すぐ投げられる状態にして置く

私のダンゴエサの特徴

私のエサ作りの特徴点は「もじり」類エサ（を使つて）です。「もじり」の利点はエサをバラクさせること。匂いを遠くまで運ぶこと。匂いで誘い寄せて食い気をおおることによって魚の活性が上がることです。

「もじり」は水分を含むと膨らんでダンゴをバラクさせます。バラケた「もじり」で鯉の好む匂いを遠くまで運びます。風などによる水の動きで、川底を漂うように移動して鯉をポイントに引き付ける効果があるのです。

ダンゴエサを作る時、入れる順番によりエサの状態が変わるので、全部の種類



の配合エサを一気に混ぜてはいけません。

私の場合、ベースエサにその他のエサを配合します。エサは多少粘りがあつた方が良いので、私はベースエサで使用している「鯉武蔵」を後から追加して粘りを出します。エサの分量と水量の混ぜ加減に注意し、練りすぎないように練り方で粘りを調整してダンゴを作ります。

最後に「もじり」を配合し、水を混ぜ軽くかき混ぜて完成です。

くわせエサはハリに付け、ダンゴに埋め込んで置きます。ダンゴの状態は2日間経つても変化はなく、投入した時、ダンゴの中の「もじり」が水分を吸ってバラケやすくなります。

マルキユウのエサはたくさんあり、それぞれ特徴があります。具体的に配合エサを使う場合、「鯉は甘いもの好きで酒飲みである」ということがヒントになります。私の場合、マルキユウのメイン配合エサにブランドーを1〜2%入れることもあります。

攻略法

私が鯉を攻める上で通常心掛けています。

場所が決まったら投げたオモリをそのままにして竿を立て、ミチイトに目印のウキ止め糸などでマークします。次にエサを付けて投入した時に、その目印を目安にすれば30cmと狂わずに同一地点にエサを打ち返すことができるのです。これが釣果を上げる秘けつです。

エサに関して、「待ちの釣り」でなく常に「攻めの釣り」を心掛けることが必要です。一週間釣り場において、最初から最後まで同じエサの配合では攻めになりません。1回やってアタリがないと場所を変えてしまう人が多いのですが、場所を変える前にエサの配合を変えて大物にチャレンジしましょう。

キャストイング

エサを同地点に打つ技術は常日頃の練

エサを同地点に打つ技術は常日頃の練習で身に付ける



鯉がヒット！竿、リールさばき、やり取りはお手のもの



のが2点打ちです。底の状態が同一の場合、エサを打つポイントが少ない方が魚の寄りがいいのです。

遠目の深場、近目の浅場というように分けてエサを打つ場合、5ヶ所より3ヶ所、3ヶ所より2ヶ所に集中してエサを打つ方が食いがいいのです。

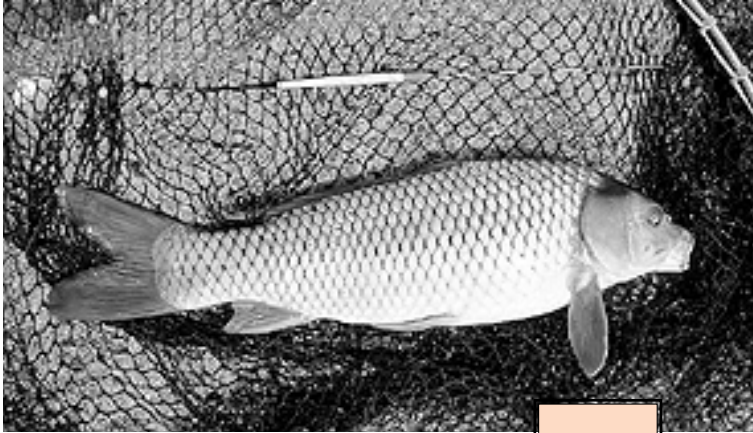
そのためには底をよく探り、ポイントと思われる場所を2ヶ所に決め、正確にエサを打つことが釣果につながります。

同一地点にエサを正確に打つ方法として、釣り場に着いたらまず、オモリだけで遠投し、何度も投げ返し、底の状態を把握することです。そうすることによって底の状態がシミュレーションでき、エサを打つ場所がおのずと決まってくる。

習で身に付けて置くことです。納竿してから、人の邪魔にならないように注意してキャストイングの練習をしましょう。

ダンゴを打つ時、水平に強く投げてはいけません。ライナー性でなく、フライのよつな曲線を描くようにリールに指でブレーキを掛けながら、ソフトなタッチで着水させることです。魚を驚かすパシヤという着水音でなく、ポチャンという柔らかな音を演出します。いわゆる「小西式の音響誘魚法」の甘い投時音で魚を寄せることが大切です。





ウキ釣りのエサ

吸い込み釣りもウキ釣りも寄せて釣るといことが重要です。ウキ釣りのエサの特徴は付けエサが小さく、粉エサを使うということです。食いが活発で頻繁にアタリがある場合は「浮子鯉」か「天下

数釣りで大物鯉も狙える 鯉のウキ釣りを楽しもう

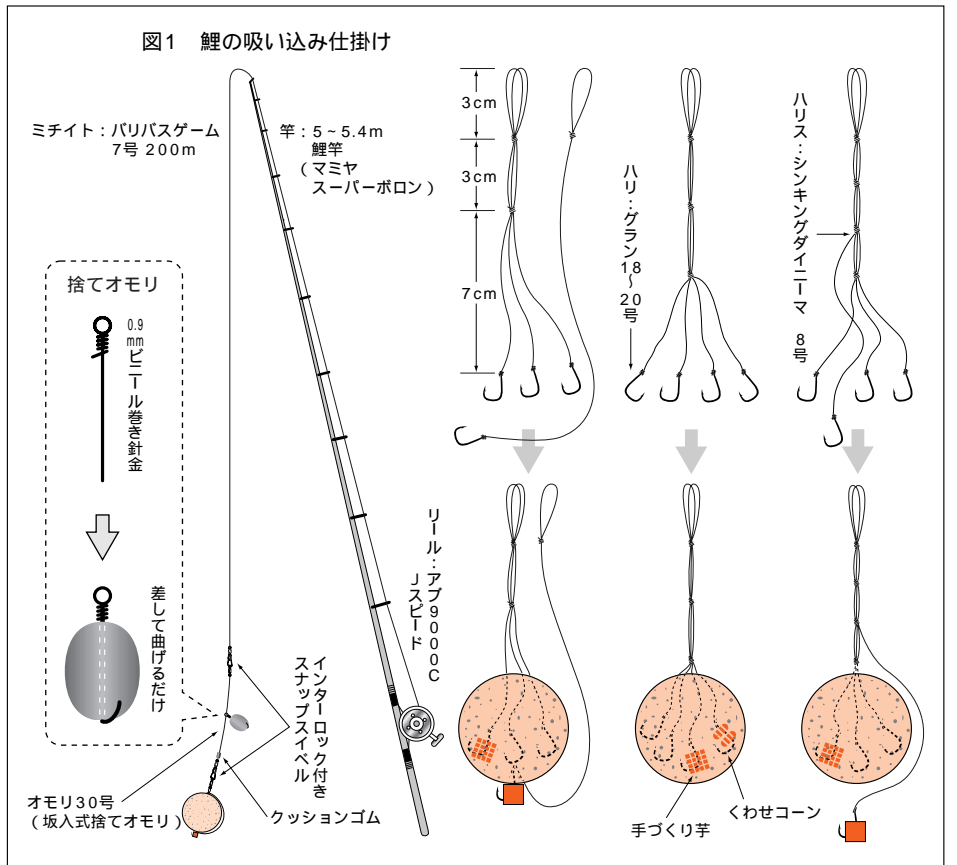
鯉のウキ釣り

無双」の単品で釣れます。私はベースエサの「浮子鯉」に「鯉のぼり」など、複数のエサを混ぜて使うことがあります。

特に私が好きな「浮子鯉」は強力な集魚力でアタリが早くシャヤマにも強い、湖沼や河川、どこでも通用する鯉のウキ釣りの万能エサです。動物性の「鯉のぼり」は、青のりが多く入っている顆粒状の強力集魚タイプで魚の食い気をおる非常に優れたエサです。

魚の食いが活発な時は「鯉にこれだ!!」を混ぜます。活性が上がりが立った場合は、状況によって「浮子鯉」に「グルテン 21」など、粘りがでる配合エサを加えて、しっかりとエサ残りのするエサに変えて釣ります。

逆にバラケ性を強くしたい時は「マツシユポテト」「もじり」などを加え、サラサラと混ぜて使うとよいでしょう。養殖系や放流鯉が多い時は「コイミ」を



タックルと仕掛け

鯉釣りのタックルと仕掛けについてはこれといって新しいものはなく、従来のもので十分釣れます。私の仕掛けを図1に示しましたので、それを参考に各自に合ったタックルと仕掛けを工夫して使ってください。重要なのはそれをいかに上手く使いこなすかということです。

以上、鯉の吸い込み釣りのエサ、釣り方などを簡単に述べましたが、釣れた情報だけに頼るのではなく、新たな未開のポイントを探すのも楽しみのひとつです。鯉釣りはだれでもチャレンジでき、夢の大物を釣るチャンスがあります。しかし、私はメーターオーバーの型だけにこだわらず、全国各地のその場所の大物を狙うこと、また釣るプロセスにこだわりたい。大物が釣れる状況に満足するのではなく、「どうしたら釣れるか?」という原点を考えることが大切なのです。

鯉釣りは自分への挑戦です。エサ、仕掛け、ポイントなどを研究し、楽しむことが大切であって、結果だけを望むものではないと思います。

中心に使い、「コイミ」に「いもグルテン」を混ぜて使うこともあります。「コイミ」は動物性タンパク質の多いよくバラける集魚効果の強い配合エサです。その他に「みどり」「鯉タニシ」「大ごい」「大いスーパー酵母」など、季節や釣り場、釣況に合わせて使い分けると良い釣果が得られるでしょう。

作り方の基本パターン

パターンA「浮子鯉」1カップに、水を1/2カップ加えます。軽くかき混ぜ2〜3分放置してできあがり。
パターンB「コイミ」1カップ、「いもグルテン」1/2カップに、水1/2カップを加えます。軽くかき混ぜ2〜3分放置してできあがり。
パターンC「浮子鯉」1カップに、「鯉のぼり」「いもグルテン」に、「鯉にこれだ!!」をそれぞれ1/2カップ入れ、水1/2カップを加えて軽くかき混ぜ、2〜3分放置します。水が染み込んだら「もじり」1/2カップを入れ、軽くかき混ぜ適度な粘りがでるまで放置してできあがり。

Cパターン

「浮子鯉」「鯉のぼり」「もじり」「いもグルテン」「鯉にこれだ!!」

食いが渋い時に「鯉のぼり」などを使用



「浮子鯉」1カップ、「鯉のぼり」1/2カップ、「いもグルテン」1/2カップ、「鯉にこれだ!!」1/2カップ、「もじり」1/2カップを用意する



水を1/2カップ加える



「浮子鯉」「鯉のぼり」「いもグルテン」をエサボウルに入れる



軽くかき混ぜ、2~3分放置する



軽くかき混ぜる



最後に「もじり」を加え、軽くかき混ぜて、できあがり



「鯉にこれだ!!」1/2カップを加える



「コイミー」1カップと「いもグルテン」1/2カップをボウルに入れる



軽くかき混ぜて水1/2カップを加える



軽くかき混ぜてできあがり



Aパターン「浮子鯉」とBパターン「コイミー」「いもグルテン」の完成

Bパターン

「コイミー」「いもグルテン」

養殖、放流鯉用に「コイミー」を使用



「コイミー」をベースエサに使う



配合して使う

「コイミー」に「いもグルテン」を



「コイミー」1カップに「いもグルテン」1/2、水1/2カップを用意する



ウキ釣りで小型の鯉が釣れた

Aパターン

「浮子鯉」

「浮子鯉」を単品使用



軽くかき混ぜる



「浮子鯉」をベースエサに使う



水がよく浸透するまで3分くらい放置する



「浮子鯉」1カップ、水1/2カップを用意する



ハリに付ける大きさに丸めて完成です



「浮子鯉」1カップをエサボウルに入れ、水1/2カップを加える



マルキューのウキ釣りエサ。これらの配合エサを組み合わせると大鯉を必釣する

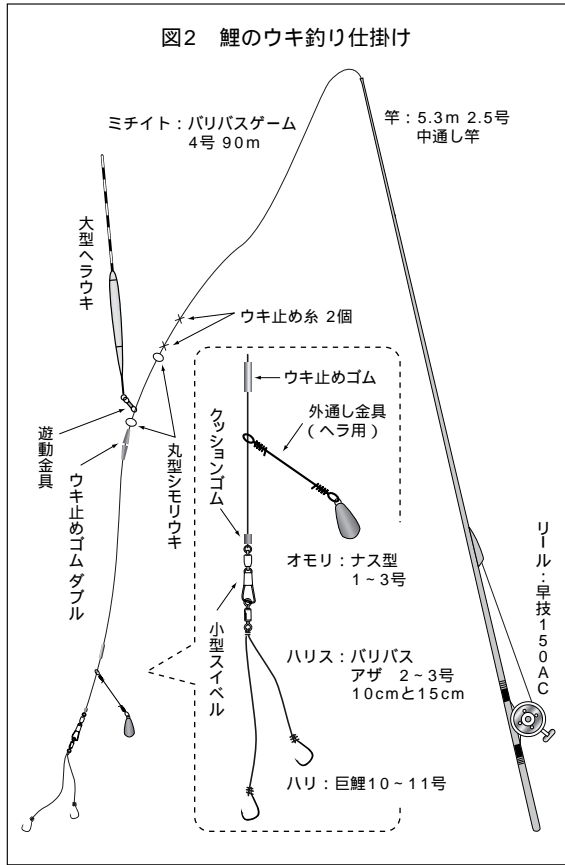
坂入一敏の鯉釣り塾

鯉がヒット!
強い引きにのされないように



ハリは「巨鯉」10〜11号で付けエサは直径15cmからハリが隠れるくらいのおきさで打ち込みます。エサを投入してウキが落ち着いたらアタリを待ちます。
鯉が寄るとウキに変化が出てきます。細かくシユワーという感じで泡づけが出たら、鯉が寄ってきた証拠です。アタリがないのに何回も同じ場所でブクブク出るのはガスの可能性が高いようです。

鯉のアタリはツンやズバツと潜っていくことが多く、食い上げなどもあります。ピクピクとした小さなアタリは合わせず、ズバツという大きなアタリで合わせて魚がスレないようにします。
ウキ釣りの魅力は四季を通じて楽しめる、大物も狙えるということです。みなさんも鯉のウキ釣りをぜひ始めてみてはいかがでしょうか。



坂入一敏

プロフィール

茨城県出身、鯉釣り歴40年。栃木県小山市在住、56歳。鯉の吸い込み釣り、ウキ釣り、レンギョ釣りを楽しんでいる。その他、草魚、青魚も狙う。「鯉釣りにシーズンオフはない」が持論。中国にも釣行し、揚子江や湖などの中国の名人と竿を共にし、本場の鯉、レンギョ、草魚などを釣った経験がある。



「鯉釣りはメジャーな釣りである」を目指して、全国鯉釣り協会を通じて奮闘中。現在、ウキ釣りに力を入れている。全国鯉釣り協会東日本ブロック会長。

釣り方

釣り場に着いたら、まず底をよく探って深さ、掛かりなど、底の状態を把握します。それによってどこにエサを打つかを決定します。底が全体に平坦でも変化している所、鯉が回避しやすいカケアカリなどにポイントを決め、釣り台と仕掛けをセットします。

エサ打ちは一点打ちが基本です。できるだけピンポイントに寄せ、エサを散らばさないようにします。最初はバラけるエサを中心に、匂いの強いエサで鯉を寄せるようにします。まずは手返し良く打ち返し、ある程度エサが入ったら3〜5分間隔でアタリを待ちます。エサ持ちは基本的に練り具合により調整します。

ウキの位置の調節はオモリベタの場合オモリが底に着いてウキが立ち、風がなぐベタナギの時は、ウキのトップが約3分の1くらい水面に出ている状態にします。風があり水面が少々波立っている場合は、トップが3分の2以上出ている状態にセツトするとアタリが取りやすくなります。

鯉のウキ釣り 私の奥の手

私は鯉の吸い込み釣りとウキ釣りの両方を楽しんでいます。しかし、仕事の関係で日曜だけしか釣りができないことが多いのが悩みの種です。土曜の夜、仕事が終わってから釣り場に向かい、吸い込み釣りの竿を出すのはいつも深夜になります。鯉のウキ釣りは早朝から始めます。仮眠を取ってからウキ釣りをします。

ですが、準備してエサを打ち込んだ時、すぐにアタリが出るようにウキ釣りのポイントに前夜にダンゴの寄せエサを打って置きます。「巨鯉」に「鯉にこれだ!!」を混ぜたダンゴ2〜3個を投入して置くと効果てきめん、第1投でヒットすることがよくあります。やはり大量に撒くより、強い匂いで寄せて釣ることがいかに大事かが解るでしょう。

繊細なウキ釣りでは中通しの竿が重宝する

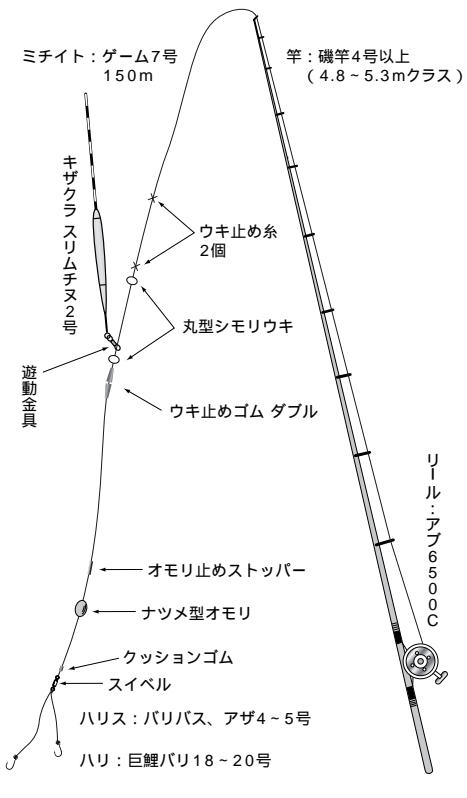


手慣れた仕種でウキ釣りの仕掛けを用意する坂入さん

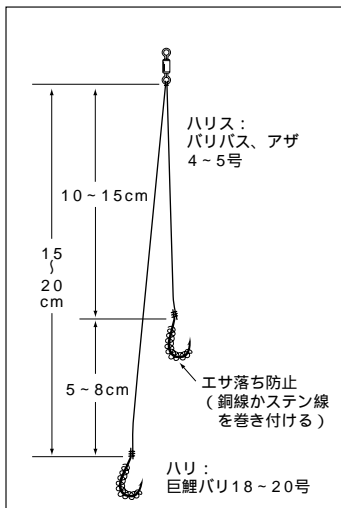


坂入一敏の鯉釣り塾

図3 レンギョの仕掛け（霞ヶ浦、北浦用）



レンギョの大き物をとめた坂入さんに子供たちの大声援。一緒に記念撮影



レンギョ釣り

レンギョは1mを超す大型揃いだ



レンギョは1mオーバーの大型が多く、豪快で強い引きが楽しめるのがレンギョ釣りの最大の魅力です。鯉のウキ釣りのタックルと仕掛けで十分釣れますし、同じ食性のヘラブナと同様に、寄せて合わせる繊細な釣りの面白さにハマる釣り人が増えていきます。

レンギョはプランクトンを食べ、深場の中層を泳いでいますので、遊泳層に「マッシュポテト」などのバラケの煙幕をつくり寄せて釣ることが大切です。レンギョ釣りと鯉釣りの違いはタナとエサにあります。霞ヶ浦のレンギョはエサ慣れ底慣れ(して)いて中層でなく、底のエサを食べる場合があります。水深1.5~2mくらいでは底慣れしているので「マッシュポテト」を混ぜ、中層より底近くを狙うと良いでしょう。

レンギョの豪快で強い引き 繊細なアタリ合わせが魅力

釣り方は2本バリの上バリにバラケ、下バリにくわせの仕掛けで釣ります。上バリに動物性を配合し、寄せ重視のバラケエサ。下バリにくわせのコンビネーションで釣ります。上バリの寄せエサのバラケの目安は2~3分です。

繊細なウキのアタリを取り、タイミングよく合わせなければレンギョは釣れません。食い上げ、スレアタリ、モヤモヤ消し込みなどいろいろなたたりに見極めることです。本アタリはヘラブナ釣りで言う「ソーン」で合わせることで。

レンギョ釣りの面白さと難しさは合わせにあります。エサを吸い込んですぐに吐き出すので、ウキに出たアタリをすかさず合わせます。合わせが遅れると口にハリ掛かりせずスレで釣れてしまい、取り込みに時間を要し、最後にバレてしまうことにも成りかねません。また、せつかく寄せた群れを散らしてしまい、また寄せるための時間をロスすることになります。掛けたら寄せた群れから引き離し、やり取りしてランディングすることが重要なポイントです。

レンギョのエサ

エサの打ち始めや活性が低い時は、エサをハリに付け打ち返して魚を寄せます。寄せエサには「大い」、「みどり」、「スイミー」、「鯉将」などを使い、「鯉にこれだ!!」を混ぜて匂いで寄せます。

レンギョの2本バリ仕掛けの上バリに寄せ重視のヘラブナ釣りのバラケエサ「バラケG」、「新B」、「もじり」などを使います。下バリにはくわせの「マッシュポテト」に「いもグルテン」を混ぜたりして使います。「マッシュポテト」を使う時は、水を混ぜ合わせて数分間放置してから使うと良いでしょう。「マッシュポテト」は単品でもいいが「いもグルテン」を混ぜるとエサ持ちが良くなります。

タックルと仕掛け

レンギョ釣りに必要な竿、リールなどは鯉のウキ釣りを併用できます。その他に必要なものは釣り台、竿掛け、大型のタモ、バケツ、エサ容器、タオルです。繊細なウキのアタリを見るのに偏光のサングラスもあれば便利でしょう。